

に行ったときに、ドアに貼り付けて使うミラーがありまして、それを日本風にデザインを変えて作ったら、これがまた大ヒットして、作っても作っても間に合わないという時期もありました。

ロングセラーのハンドルカバーの開発秘話

これは私が開発したのではなくて、私が前の会社にいる時、大変お世話になった方が作っただけです。方々にサンプルを送られて扱って欲しいと依頼をされたんですけども、どこも拒否して返されたんですね。それを知って、私の力でどれくらい売れるかどうかからないけれど、「私がやりましょう」と一手に引き受けて、それを自転車のハンドルに引っかけ、一軒一軒回った先で置いてある車にそれをはめて、触ってもらおうと「見た目はあまり良くないけれど、はめて触ってみると良いなぁ」ということで、一軒に3本、5本とか6本という数で始まったんですね。やがてそれが広まって一月に三万本以上売れるようになりました。そうしましたら、断ったお店も「やりたい」と申し出たんですけども、その作られた方が「これは鍵山が一人で広めてくれた。だからもう今から他には売らない。」と言って、私一人に絞って売ってくださいました。だからそれ以来50年以上続いてきたんです。そこで多くの方に知って欲しいんですけど、「人間は感謝の心を持ったら大きな力が出るんです。」「感謝の心を持ったら人との縁も続くんです。」「反対に言えば「感謝の心が消えた途端に縁が切れるんです。」「まず、感

謝の心を持つということが大事ですね。そうしますと、「感謝の心を持っていますと、不思議に未来への責任感も沸いてくるんです。」一対になっていきますね。その元になるのはまず、感謝の心を強く持つということです。双方がお互いに相手に対する感謝の心を強く抱いたということです。半世紀にわたって続いた理由ですね。

数値に表せるものばかり信用してはならない

昔の人はものがなかったということもありました。たとえば地上にいても地下に流れる水の音を聞くことができたとか、そういう不思議な、いや不思議じゃないんですけども、そういう能力がありました。ところが今は目に見えるものばかり、それから数値で表されるものばかり信用して、数値に表せないものは信用しないという時代になりましたね。これは良くないと思います。感謝の念を数値で表すことはできない。しかし大事なものです。私はこれを大事にしてみました。

お客様のニーズに気づく

たとえば、エアホーンだって探すのは難しいですが、そこで「それは無理です」と言ってしまうとお終いですよ。この人がこれだけ困っているなら、私は何とかしたいという気持ちで探したら、ちゃんと相手が見ているものを探すことができたんです。持つて行ったら「これだ、助かった」と。この人がこんなに喜ぶとは、きっとまだ望んでいる人がいるはずだというふうに結びついたんです。

便教会新聞

第140号

平成30年11月

立志

便教会は、教師の教師のためのトイレ掃除に学ぶ会です。「方法論や技術や手法ではなく、ただ身を低くして実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高めることを目的としています。

便教会新聞発行責任者 高野修滋

〒四四五一〇八〇二

愛知県西尾市米津町天竺桂二七

TEL.〇五六三ー五六一四三二七

携帯 090-4215-1727

『私の人生を変えてくれたトイレ掃除』

東海学園大学 三年
袴田 芹菜

便教会に参加するのは、今回が二回目でした。今年も昨年と同様、ゼミ担任の梶岡多恵子先生から便教会のお話を聞き、「ぜひやりたい!」と迷わず参加を決めました。それは去年のこの便教会で味わった、言葉には言い表すことのできない感動と快感が、一年経っても薄れることなく私の心に残っていたからです。

去年、初めて便教会に参加したときは、トイレ掃除を素手でやることに不安と恐怖しかありませんでした。お恥ずかしい話ですが、私は生まれてから二十年間、家庭でも学校でもトイレ掃除をしたことがありませんでした。家庭でのトイレ掃除はいつも両親に任せきりであり、小中学校時代も掃除に対して不真面目だった私は、真剣に取り組んだことはありませんでした。そのため、人生で初めて無言で便器と向き合い、真剣に取り組んだ掃除が、去年の愛知工業高校で行ったトイレ掃除となりました。また、便教会に参加するまでの私のトイレに対するイメージは「汚い、くさい、でもそれが当然。」という

ものでした。しかし、便教会でトイレ掃除をやってみると、トイレ掃除に対するマイナスなイメージはいつの間にか消え去り、一所懸命になって便器に顔を近づけている姿がトイレの鏡にはつきりと映っていました。そして、キュッキュッと音がした時の便器の真っ白い輝きを見た時は、涙が出るほど感動しました。しかし、トイレ掃除未経験者だった私は、掃除に取りかかった直後はやり方も分からず、どこから磨いたら良いのかさえも見当がつかず、戸惑い、不安でいっぱいでしたが、同じ班の方々や丁寧に掃除の仕方を一から教えてくださり、不安しかなかったトイレ掃除を楽しく笑顔で終わらせることができました。むしろ、まだまだ時間をかけて磨きたいという気持ちが強かったと思います。この時から私のトイレに対する気持ちは「汚くなるからこそ、これからは自分できれいにしていこう。」と、前向きでプラスのものに変わっていました。それからは便教会のトイレ掃除で使った道具に似たものを買に行き、定期的に自分から進んでトイレ掃除をするようになりました。

今回、二回目の参加を決めた時は、昨年のような不安と恐怖はなく、また去年と同じように先生方とトイレ掃除ができることをとても楽し

【編集後記】私は42歳でトイレ掃除を体験するまでは志のない冷めた教師でしたが、あの子の一手が私の心に灯をつけて蒸気機関車のように動き出しました。燃料の石炭は参加者の笑顔や感動のことばです。今号で紹介した二人の女子大学生のことばで心が震えました。『便教会に参加せずに教員の道を進んでいたら、「トイレ掃除をしなさい。」とただ言葉で指導してしまい、自分の成長も子どもたちの成長も見えない教員になってしまっていたと思います。』(袴田芹菜さん)『言葉掛けだけで掃除をする振りをしていては子ども心に灯はつきません。しっかりと子どもと同じ目線になりながら行うことが大切であり、また、子どもの心を動かすためにはまず自分の行動を見直さなければならぬのだと学ぶことができました。(久保泰絵さん)』上から目線のことばだけでは子どもたちは動かず、心に灯りは点りません。自分の言動を見直すことほど難しいものはありません。教師はプライドを脱ぐことはできるのか。身を低くしてトイレ掃除することで心身の重心が下がります。横を見れば子どもたちの目があり、新たな視点が生まれる瞬間です。先生も子どもと一緒に「きれいを広げる」ことに夢中になれば、教師と子どもたちの一体感が生まれます。この信頼関係が一旦築かれると、いろいろなことがスムーズに運ぶようになります。これは基礎工事がしっかりできてきた土台の上に建物を建てるようなものです。教師の気づき、主体変容、言動、実践が子どもたちの人生の道しるべとなります。高野修滋 拝

みにしていました。『今年は去年取れなかった隙間の汚れを必ずとる!』と目標を決め、去年も挑戦した男子便所を磨き始めました。しかし、今回は佐久島での開催で、海の近くのトイレ掃除だったため、海の塩のような汚れも付着し、なかなか取れない汚れで思うようにいきませんでした。汚れが取れずに悔しい気持ちもありましたが、今回の便教会ではトイレ掃除はトイレをきれいにするだけでなく、人の心もきれいにし、潤してくれる素敵なものであるということに気づくことができたと思います。

また、便教会を通して、何かに一所懸命に取り組むことの大切さと気持ち良さも知りました。私は、高校時代に部活動でバスケットボールをしていましたが、決して強豪校ではありませんでした。しかし、昔から何をやるにも中途半端が嫌いで、やるからには全力でやる性格だったため、練習が終わった後も一人で自主練習をし、夜遅くに帰ることが当たり前の生活を送っていました。しかし、ある時チームメイトから「そんなに頑張っても試合には勝てない。そんなに頑張っても、その頑張りは無駄だよ。」と言われたのです。そのとき、何事にも一所懸命取り組むという自分の長所が嫌いになった瞬間でした。また、『頑張る』ことに戸惑いを感じるようになり

『便教会による様々な気づき』

東海学園大学 三年
久保 奏絵

なりました。しかし、そんな気持ちもこの便教会が変えてくれました。同じ班の方々が「便器がきれいになってるよ、がんばれ！」と笑顔で見守ってくださいたり、掃除を終えた後には、「一所懸命磨いている姿が輝いてたよ、一緒に掃除ができて良かった。」と言ってくださいました。私はこの時、夢や目標に向かって必死になって頑張りを、汗を流しながらも全力で取り組むことは、決してかっこ悪いことでも、無駄なことでもないんだと気づき、あの時かけて頂いた言葉が今も私の頑張る支えとなっています。「トイレ掃除をする」という一つの行動であっても、トイレ掃除には計り知れないパワーがあり、掃除をすればするほど私に必要な学びを伝えてくれます。

私は今、養護教諭をめざして勉強をしています。私が、週に一度、愛知県内の小学校で保健室ボランティアをさせていただいています。その際には、子どもたちから「トイレ掃除が嫌だ、トイレは汚い。」と言われることも珍しいことではありません。反対に、「トイレ掃除が好き。」と言ってくれる子どもたちは、なかなかいません。子どもたちのトイレに対する素直なイメージは、私が去年最初に思っていたイメージとそっくりでした。そのため、この便教会で得たあの快感やトイレ掃除の大切さを私一人で終わらせるのではなく、子どもたちと共にトイレ掃除を行いながら伝えていきたいと考えています。教員は、子どもたちにトイレ掃除を含め、「しっかりと掃除をなさい。」と指導する立場ではありませんが、私が去年の便教会で感じる事ができたように、

たのです。

トイレを素手で触ることで便器の裏側など、目だけでは判断できない汚れ、つまり新たな発見をすることができると知りました。ザラザラとしていた掃除をする前の便器は、ひたすら磨いていくとツルツルになり「あ！綺麗になった！」と気づくことができるのは素手でしか感じられない事でした。掃除を続けていくと本当にあっという間に時間が過ぎてしまい、終了した後でも掃除し足りないという気持ちでいっぱいでした。便器が綺麗になっただけではなく、あの嫌な臭いが広がっていたトイレ内の空気も綺麗になり、清々しい気持ちになりました。掃除後は、掃除道具を綺麗に洗い、次回使用する人が気持ち良く使えるようにするという、最後まで配慮を忘れないことも強く印象に残りました。元々掃除をすることが好きだった私は、今までの掃除はただ表面的に行っていて満足していたかもしれない。しかし、この便教会で掃除に対する考えが変化してきました。しっかりと腰を落として視点を変えることで見逃していた汚れを発見することができ、意味のある掃除が行えるのだと実感しました。

そして今回の「第十八回便教会総会」では、人生で二回目の便教会でした。トイレ掃除を去年経験した私は、不安よりも楽しみという気持ちの方が大きくなっていました。その楽しみというのは、トイレ掃除だけではありません。多くの経験を積んだ方々との出会いも期待していました。去年と同様、一日目は便教会を通した学びを聞きました。今回の発表者は二人とも教

体験してみなければ分からないことが必ずあると思います。ただ言葉で伝えるだけでは、トイレに対するマイナスイメージはなくなるどころか、どんどん増えていってしまうと思います。だからこそ、私自身が楽しみながら一所懸命にトイレ掃除をしている姿を子どもたちに見せ、きれいを子どもたちと共に広げていけたらと思っています。この便教会に参加せずに教員の道を進んでいたら、「トイレ掃除をなさい。」とただ言葉で指導してしまい、自分の成長も子どもたちの成長も見えない教員になってしまっていたと思います。そして、私の人生においてトイレ掃除を「楽しい！」と感じることもなかったかもしれません。指導することも教員として大切なことであると思いますが、言葉だけではなく、私自身の行動で示していける養護教諭をめざしたいです。それはトイレ掃除だけではなくありません。時間を守ること、ごみが落ちていたら拾うこと、人の気持ちを考えて行動すること、挨拶をすること、全ての行動がそうであると思います。今回、トイレ掃除をきっかけに私は大きく成長することができました。

最後になりますが、教育者になる前にこのような経験を二度もさせていただけたことを本当に嬉しく思っています。声をかけてくださったゼミの梶岡先生、教育者としてはまだまだ未熟な私たち学生を、優しく温かく迎え入れてくださった先生方には本当に感謝しています。養護教諭になるという大きな夢、そして子どもたちときれいを広げていくという輝く夢を叶えられるよう、精一杯頑張ります。

論として働いていらっしゃる方々で、養護教諭をめざして日々勉強をしている私にとっても興味深い内容でした。学校現場に出たら子どもたちに掃除の指導をすることも教師の役目です。しかし、言葉掛けだけや掃除をする振りをしていては子どもの心に灯はつきません。しっかりと子どもと同じ目線になりながら行うことが大切であり、また、子どもの心を動かすためにはまず自分の行動を見直さなければならぬのだと学ぶことができました。そして、二日目はそれぞれの場所に分かれて気持ちの良い汗を流しながらトイレ掃除を行いました。トイレ掃除をして改めて思ったことは、素手でトイレ掃除を行うこの感動は実際にやってみなければ感じられないということです。一泊二日と密度の濃い時間を過ごすことができたのは、高野修滋先生をはじめ多くの方々が私たち学生を温かく迎え入れてくださったおかげであると身にしみて感じています。

先述したように私は現在、養護教諭をめざしています。育ち盛りの子どもたちを相手にするため、私自身が多くの経験を積み、人間性を高めなければ務まらない職業でもあると思います。大学での勉強だけではなく、子どもたちと関わる機会を少しでも増やすようにとボランティアなどにも参加しています。この便教会も最初は、教育には直接関係なく掃除の仕方が学べるのかと興味本意での参加でした。しかし便教会を終えた後には、私が思っていた以上の学びや気づきがありました。腰を低くして掃除をしなければ見えて来ないものがあるように、養護教諭も

保健室に来室する子ばかりに注意を払うのではなく、保健室に来ない子、保健室に来られない子たちにも配慮し、自ら足を運んで全校児童生徒と積極的に関わらなければ、学校全体の健康を守ることはできないということがわかりました。また、この便教会は普段の生活を見直すきっかけにもなりました。人間性を高めるためにも普段から視野を広げるよう意識し、養護教諭としての力量を少しでも向上させるために、これからも精進したいと思っています。

便教会で経験した、言葉では表すことのできない多くの感動はこれから先も忘れることはありません。便教会という一つの活動から視点を変えることで様々な気づきがありました。このような貴重な経験をさせていただく機会を作ってくださいった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。私も皆様のように志高い人間となり、養護教諭という夢を叶えられるよう頑張ります。ありがとうございました。

『私の人生 その八』

日本を美しくする会
相談役 鍵山秀三郎

もう一つの商品開発

当時、自動車のフェンダーにバックミラーが付いていたんです。私たちはフェンダーで見るとよりドアで、近くで視線を動かすだけで見方が見やすいわけですね。フェンダーですと遠近がわかりにくいですよ。ところが日本にはドアに付けるミラーがない。アメリカ